生き物と環境（小学校高学年・理科）

（　　）小学校（　）年（　）組
氏名（　　）

産卵するアオウミガメ＝2024年7月、奄美市（奄美海洋生物研究会提供）

奄美大島ウミガメ産卵

過去2番目の少なさ

289昨年回

奄美大島での2024年のウミガメの産卵は計289回で、調査を始めた12年以降では23年に次ぐ少なさだったことが、民間研究者らでつくる奄美海洋生物研究会の調査で分かった。最多だった12年の千回超から大幅に減っており、同研究会は調査継続と中長期的分析が必要としている。

調査によると、内訳はアカウミガメが23年より1回多い47回、アオウミガメも49回多い206回、種不明は36回だった。アカウミガメは13年の663回をピークに減少傾向がみられ、低い水準で推移。アオウミガメは安定的に推移していた。

瀬戸内町の加計呂麻島では季節外れの24年2月10日にアオウミガメが産卵した。子ガメがふ化した様子などは見られなかったという。

同研究会は、環境省やNPO法人、地域住民が奄美大島の海岸で産卵した痕跡を調べるなどし、毎年公表している。興克樹会長は「東シナ海での混獲による生息数の減少、餌資源の減少による産卵頻度の低下などが原因と考えられるが、明確な因果関係は確認できていない」と話した。

2025年1月17日付20面

【問1】　奄美大島での 2024 年のウミガメの産卵は計何回でしたか。

　ウミガメの産卵は計（　289　）回だった。過去 2 番目の少なさだった。

【問2】　2013 年の663回をピークに産卵回数の減少が見られるウミガメの名前は何ですか。

　（　アカウミガメ　）

【問3】　瀬戸内町の加計呂麻島では、季節外れの 2024 年 2 月 10 日にアオウミガメが産卵しました。その後、どうなりましたか。

　（　子ガメ　）が　（　ふ化　）した様子などは見られなかった。

【問4】　奄美海洋生物研究会の興克樹会長は、ウミガメの産卵の減少について、どのように考えていますか。

　「（　東シナ海　）での混獲による（　生息数　）の減少、餌資源の減少による（　産卵　）頻度の低下などが原因と考えられるが、明確な因果関係は確認できていない」と話した。

【書きましょう】　この記事を読んだ感想を書きましょう。

むずかしい漢字とことば

奄美（あま・み）　産卵（さん・らん）　調査（ちょう・さ）　以降（い・こう）　超（ちょう）　大幅（おお・はば）　減（へ）って　継続（けい・ぞく）　分析（ぶん・せき）　内訳（うち・わけ）＝品物などを種類ごとに分けたもの　減少傾向（げん・しょう・けい・こう）　水準（すい・じゅん）＝比べるときの程度。レベル　推移（すい・い）＝ものごとのありさまが移り変わること　瀬戸内（せ・と・うち）　加計呂麻島（か・け・ろ・ま・じま）　環境省（かん・きょう・しょう）　地域（ち・いき）　痕跡（こん・せき）＝何事かがあったあと　混獲（こん・かく）＝漁業対象の魚種と一緒に、対象外の魚や生物を捕獲すること　餌資源（えさ・し・げん）　頻度（ひん・ど）＝同じことが繰り返し起こる度合い　原因（げん・いん）　明確（めい・かく）　因果（いん・が）＝ものごとの原因と結果　確認（かく・にん）

©南日本新聞社　教育目的以外の無断転載　複製および頒布は禁止します

南日本新聞社